

工学部だより

2012.3
No.17



有機エレクトロニクス 研究センター開所式

(6頁本文参照)



ドリームチームメンバー

目

責任ある教育の実施 飯塚工学部長	2
ごあいさつ 上村後援会会長	3
学務委員会より	4
東日本大震災による影響	4
特集 就職活動体験談	5
トピックス	6
学科(専攻)だより	7
平成22年度一般会計収支決算書及び 平成23年度一般会計収支予算書	12

次

平成23年度工学部後援会役員名簿	13
お知らせ	13
平成24年度工学部年間予定表	13
平成23年度卒業・修了予定者の就職内定・ 進学予定先一覧	14
平成22年度卒業・修了者の就職状況	15
サークル紹介	16



責任ある教育の実施

工学部長 飯塚 博

昨年3月に発生した地震は大学におけるその後の教育研究活動に大きく影響しました。また、ものづくり企業の海外シフトやヨーロッパの景気不安とそれに伴う円高は、特に卒業・修了見込み者の就職活動に影響し、保護者の皆様に大変なご心配をおかけしました。この背景には、社会の大きな流れがあり、それに伴って大学教育も大きく変わろうとしています。今回は、この状況を整理し、保護者の皆様と連携して、今、大学がなすべきことを述べさせていただきます。

○ 時代の流れと社会が求める人物像

1800年代にヨーロッパで始まった産業革命は、蒸気機関を生み出し、その動力を利用して労働者を一か所（工場）に集めた産業活動を可能にしました。そこで働く人には、決められた仕事を間違いなく実施することが求められました。したがって、この時代の教育手法としては、教師が教室の前方に立ち、多くの情報を効率的に伝える手法が取られました。

近年、少なくとも先進国と呼ばれる国々では、このような時代は終わり、同じものを多量に安く作るものづくり産業は他の地域へ移動しつつあります。これによって、昔ながらの手法で教育を実施しても、社会から求められる人材は育成できず、代わって、新しい価値を創造していく能力が、今、求められているのです。

○ 社会システムに任せない教育

私が子供の頃、農家では米、野菜、味噌は自宅で作るのは当たり前でした。今では、味噌を自宅で作ることは殆どありません。社会システムの中に我々の生産活動や日常生活が組み入れられ、必要なものやサービスをお金で入手して生活しています。すなわち、お金さえ払えば多くのことを他人に依頼できる社会になっています。しかし、社会システムに委ねて良いことと委ねてはいけないことがあります。教育においては、まずは保護者である親や家族がどのように子を育てるかが、その人の人生に大きく影響します。その責任を社会システムに預けてしまっ

てはいけません。大学においても、大学でなくては

○ 今の大学に求められるもの

数年前の機械系同窓会で、本学OBで㈱フロンティアル代表取締役・大泉氏のご講演を拝聴しました。お話の中で、「仕事（人生）の成功 = 能力×熱意×考え方」という京セラ元会長・稲盛氏のお言葉を教えていただきました。我々が身につけなくてはならない要素を見事に言い当てていると思います。大学教育において、上記「能力」には「基礎学力・専門知識」が相当します。「熱意」については、たとえば、2006年に経産省から「社会人基礎力」として出された「前へ踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力」などが相当すると思います。「考え方」には色々な内容が含まれており、「高い志」、「徳性」あるいは「哲学」などがそれに対応します。今の大学には、上記のバランスの取れた総合力を育む教育が求められています。

「基礎学力・専門知識」に対しては、大学で組まれている教育カリキュラムが系統的な知識を与えてくれます。また、「社会人基礎力」に対しては、現在、各教育プログラムでグループ討論、創成科目、問題解決型授業の実施等の導入が検討されています。これらに対して、「考え方」は、特定の科目を立ち上げれば達成できるという性格のものではありません。多くの経験を積み重ね、自然と育まれていくものです。

工学部のキャンパスには、活気に満ちた雰囲気・気風が備わっています。このような環境の中で、工学部と保護者の皆様が協力して、時代の要請に合った能力と、積極性や責任感などの一歩前へ踏み出す力、礼儀、挨拶・返事、約束を守る等のバランスの取れた社会常識を育み、社会で活躍できる有為な人材を育てていきましょう。



ごあいさつ

工学部後援会会長 **上 村 勲 二**

工学部後援会会員の皆様には日頃から会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

6月の理事会で会長に就任しました上村です。前会長の山森茂一郎様は、旧米沢工業専門学校以来活動してきました「米沢教育振興会」と「米沢体育後援会」を発展的に移行となった「工学部後援会」の初代会長として、国際化に対応した留学生受入れ・技術革新に伴う学科改編・独立行政法人化への移行、さらに創立百周年記念事業など時代と共に発展する工学部と学生を支援する後援会を、平成8年4月から15年間にわたり牽引していただき、長足な進展を遂げられました。長年のご尽力に対し、深く感謝と敬意を申し上げます。

昨年3月11日の東日本大震災に被災されました皆様並びにその後発生しました福島原発事故による避難や被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。

山形大学工学部でも302名（1月現在）の学生とその家族が被災されています。山形大学では、支援基金と教職員の募金から被災した学生への授業料免除や奨学金の支援をしていますが、被災した学生全員に行き渡りません。工学部では、独自の被災学生支援基金を創設し、被災により収入基盤を失った学生に対して、生活費の一部を支援するために、現在教職員はじめ各界にご協力をお願いしているところです。

つきましては、保護者の皆様におかれましても、本趣旨をご理解いただきご協力賜わりたくお願い申し上げます。ご協力いただけます場合は、次の係りまでご連絡ください。申込書類を郵送いたします。

山形大学工学部後援会事務局 綿貫、渡部
〒992-8510 米沢市城南4-3-16
Tel 0238-26-3003 Fax 0238-26-3406
E-mail kougcho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

また、工学部の学生は、震災ボランティア「チーム米沢」の主力として、教職員・一般市民と一緒に延べ13回にわたり、東松島市や石巻市、七ヶ浜町で側溝泥上げや瓦礫片付けなどを行い、地域の方々から感謝の言葉をいただき、活動の大切さを実感してい

ました。

昨年度工学部で実施した保護者懇談会の大好評を受けて、今年度は全国を3ブロックに分けて保護者懇談会を実施しました。開催場所等は次の通りです。

地 域	開催日	開催地	参加者数
関東地区	9/9(金)	東 京	44名
北海道・東北地区	10/8(土)	米 沢	約200名
西日本地区	11/6(日)	名古屋	20名

懇談会では、全体説明の後に学科毎に分かれて質疑応答と個別相談を行いました。心配事が分かった、個別相談で詳しい内容を知った、来年度も実施して欲しいなどの感想・要望がありました。

来年度も3ブロックに分けて下の予定で計画しています。開催前にご案内申し上げますが、他会場の出席も結構ですので、ご参加をお待ちしています。

地 域	開催予定日	開催予定地
関東・甲信越地区	9月16日(日)	さいたま市
北海道・東北地区	10月6日(土)	米沢市
中部・西部地区	11月11日(日)	名古屋市

平成24年度卒業する学生の就職活動が12月1日から始まりました。就職活動開始は例年10月1日でしたが、就活の長期化による学業への負担を軽減するために、経団連が倫理憲章を見直し、2か月遅れました。ただ、面接や筆記試験などの選考は4月1日からと従来と同じですので、短期決戦となります。

工学部では12月3日・4日・10日に体育館で合同企業説明会を開催しました。292社の企業に約600名（延べ1,874名）の学部・院の学生が希望する会社の説明を真剣に受け、受験の準備を備えていました。

今年度の就職内定者は、大震災の影響で各社の選考が遅れた影響で91.2%（1月現在）と昨年度よりも0.8%低い状況ですが、よく挽回しました。工学部全体として各学科と連携しながら100%内定を目指しておりますので、あきらめないで取組まれることを期待しています。

昨年度は工学部創立百周年の節目の年でした。今年度は新たなスタートの年として、後援会が支援しております新しい取組みを中心にご紹介申し上げ、挨拶といたします。

学務委員会より

学務委員長 神戸 士郎
(大学院理工学研究科・物質化学工学専攻 教授)

東日本大震災により亡くなられた方々に心より哀悼の意を表するとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

学務委員会は、教育と学生生活に関する広範な内容を相談しながら決定するところです。23年度は被災学生支援も行ってきました。幸い、工学部学生に犠牲者はいませんでした。約300名の工学部生のご家族が被災しました。学務委員会ではメンタルケアを中心とする支援を決定し、現在も継続中です。詳しくは次のコラムをご覧ください。震災で卒業式と入学式は中止となりました。大学ホームページ（HP）の学長室便りに幻となった「卒業式、入学式告辞（学長）」が、工学部緊急連絡HPに「入学生をむかえる言葉（学部長）」が記載されています。ご覧になっていない方は是非一読下さい。3月から4月初めにかけ、エネルギー不足が深刻化し、交通機関は広い範囲で不通となりました。学生の引越しも滞り、授業開始を2週間延期せざるを得ませんでした。テスト期間はお盆にずれ込みました。期間中、余震や停電などの突発事態も懸念されましたが、大きなアクシデントはなく無事終了することが出来ました。やむを得ない処置とはいえ、お子様の帰省等を変更したご家庭も多々あったと思います。この場を借りてお詫びいたします。

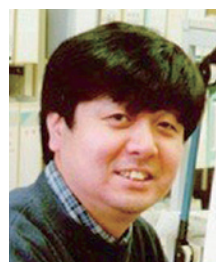
23年度後期に、全学に先がけ出欠情報管理システムを導入いたしました。講義室に設置された装置に学生証をかざすことにより出欠を記録するシステムで、学生一人一人の出欠の様子がリアルタイムで把握できま

す。24年度から本格運用に入り、長期欠席などの早期把握と防止などに力を発揮すると期待しているところです。

保護者の皆様には、お子様の成績表を年2回（9月と3月）にお送りしてきましたが、24年度も同時期にお送りする予定です。進級や卒業条件も添付します。成績表の様式を学生と同じにしましたので、お子様とお話いただくことで、より詳しく履修状況が把握できると思います。万一ご不明な点があれば、遠慮なく工学部教育支援担当へお問い合わせ下さい。

交通事故や触法行為、試験などの不正行為は、社会的に許されないだけでなく、進級や就職などで本人に計り知れない不利益をもたらします。予防について、これまでも学生に周知徹底してきましたが、引き続き注意喚起を行ってまいります。特に、無灯火や飲酒での自転車運転や放置自転車のチョイ乗りは、交通事故時の過失や犯罪の構成要件となりますので、ご家族からも折に触れて注意いただければ幸いです。

山形大学工学部は、「日本一の工学教育」を目標に、社会に貢献できる基礎的な力と専門的な能力を身につけ社会に送り出すことを目指してきました。これからもこの目標に向かっていきますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



東日本大震災による影響

臨床心理士・准教授 高橋 国法



工学部後援会の皆様には心より御礼申し上げます。また、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ここでは震災による学生への影響について触れたいと思います。この度の地震では近隣のアパートへの被害は大きくはあり

ませんでした。地震がもたらした様々なことで精神的に不安定になった学生が数名見られました。震災後しばらくの間、落成間もない百周年記念会館でしたが、不安を覚える学生のために一時的に避難所として使用させて頂きました。大変助かりました。

平成23年度の前期は例年より遅く始まりましたが、米沢キャンパスでは震災に関連し、学生相談室のカウンセラー（計3名）で約80名の学生と面談を致しました。被害状況も心に受けた影響も人様々で、約1割の方とは複数回の面談を行いました。また、四月の面談では何でもなかった学生でも、五月の中頃

から学業を続けることが困難になった方が複数名現れ、継続した面談を行いました。今では、ご家族と教職員の協力により心の安定が図られています。

その他、我々の目の届かないところで苦しんでいる学生がいらっしゃるかも知れません。何かお力になれるかもしれませんので、ご一報頂ければ幸いです。心的外傷の治療に詳しいハーマンは、心的な外傷は人を孤立させると説きます。そして、その方々に必要なのは、まずは安心できる環境を整えることだとしています。

こういった惨事に遭遇しますと、その時は大丈夫でも、半年、一年、人によっては数年経ってから心身に不調が現れることがございます。震災復興と声高に叫ばれておりますが、心にもうしばらく時間が必要だという学生もいるだろうと推察しています。不安な学生が安心感を取り戻すにはご家族や周囲のご理解とご協力が不可欠となります。今後ともあたたい眼差しでご支援をよろしくお願い致します。

特集 就職活動体験談

厳しい就職戦線を勝ち抜き見事内定を得た学部学生と大学院生から、就職活動に関する体験談について寄稿していただきました。やがて就活することとなる後輩の学生の皆さんの参考にしていただければ幸いです。

私が内定を頂いた企業はマイナビやリクナビなどの就職活動サイトなどでのエントリーなどがありませんでした。その会社の求人があることを知ったのは学内で開かれた合同企業説明会でした。私は就職活動するにあたって2つの条件がありました。1つ目は、実家で暮らしたいと考えていたので実家から通勤できる企業であること。2つ目は、大学でプラスチックの成形加工について学んできたのでプラスチックの成形加工に関わる仕事ができることです。この2つの条件を満たしていたので採用試験を受けたいと思いました。

まず大変なことは会社のホームページの採用情報をみて、こちらから企業へ直接メールで会社説明会や採用試験に参加したいという連絡をとらなければならないということです。しかも採用情報が記載される時期がわからずこまめにホームページを確認しなければなりません。私が気付いた時にはもう会社説明会が終わりそうになっていて、とても慌

機能高分子工学科4年 矢作 開^{はるき}

てました。会社説明会の1週間後には採用試験があり、筆記試験と面接でした。筆記試験は一般教養のほかに専門分野の問題が出題されるということで慌てて専門分野の勉強を行いました。その後、採用試験の1週間後に内定の連絡をもらいました。

近年は就職氷河期などと言われ就職することが難しいといわれる中、内定をもらうことができて本当にうれしかったです。苦労したことは履歴書を書くことでした。特に「学業以外で学生時代に頑張ったこと」の欄を書くのに苦労しました。私はアルバイトの経験もなくサークルにも所属しておらず何も書くことがないのでサークルなどに所属していればよかったと思いました。

これから就職活動をする方はインターネットでは得られない情報などがあるかもしれないので、合同企業説明会などの会社説明会に積極的に参加した方がいいと思います。

2011年度は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、生活が成り立たなくなる程の影響を受ける中での就職活動となった。2012年度においても、昨年とは違った形で大震災の影響が色濃く残ると思われる。しかし、取り巻く環境が変化しても、我々学生にできることはあまり変わらず、企業に対して最大限、自分自身をアピールするほかない。そのために、自分のやりたいこと、希望する業界、職種について明確にしておく必要がある。動機・裏付けは明確なほど良いので、それらの基となる自己分析、企業研究はできるだけ早い時期から始め、整えて欲しい。

私の場合は「何をやりたいか？」が明確であったため、悩むことは少なかった。20歳の時に半年間ほどの長期インターンシップを通して、開発部門での実務を経験し、それが自分の将来を考え始めるきっかけとなった。また、社会人と一緒に業務に携わることで、将来、自分が働きたい分野と業務を明確に絞れたため、研修が終わる頃には就きたい分野が定まっていた。そして、社会人の仕事に対する意識の

電気電子工学専攻2年 東海林 幹^{もとき}

違いを身をもって感じ、不足している能力や伸ばしていくべきところを把握することができた。これを踏まえ大学院への進学を決意し、将来像を持ちながら2年間過ごしてきた。その結果、自信を持ってアピールでき、内定を得ることができたと思う。

将来働く像を明確にイメージする糧として、企業のインターンシップや職場見学など、自分の足を動かして積極的に参加して欲しい。自分の目で見えて感じ取ったものは、ホームページやパンフレットに載っていない生きた情報となり、就職活動を進める上で大きな判断材料になると思う。

最後に、就職活動を始める以前、私は社会のしくみや業界について詳しい方ではなく始めて学ぶことが多々あった。また、就職活動がきっかけで様々な分野の方と交流したことで、就職活動を終えた今では有意義な経験ができたと感じている。これから就職活動の本番を迎える人は、初めてのことでばかりで辛い経験をすることがあるかもしれないが、人生経験として良い刺激を受けながら頑張りたい。

今年度も「保護者懇談会」を開催

総務課広報室 青 木 遙

今年度も保護者の方をお招きして「工学部保護者懇談会」を開催しました。

本懇談会は、工学部及び工学部後援会で共同開催しており、今年は東京、米沢、名古屋の3会場にてそれぞれ開催。米沢キャンパスで開催した「北海道・東北地区保護者懇談会」では約200名という大勢の保護者の方にお集まりいただき、学生生活への関心の高さが伺えました。

最初に、保護者の方が日頃から興味関心、あるいは不安を持っているだろう卒業後の進路について講演を行い、その後は個別の質問に教員が対応しました。

終了後のアンケートでは、「大学は入学、卒業のみしか来る機会がないものと思っていましたが、このような保護者会を設定していただき、大学が身近に感じられ、子供との距離も縮まった様な気がします」、「学科ごとの個別相談の時間を多く取って欲しいです」などの感想が聞かれました。

【平成23年度工学部保護者懇談会】

- ・関東地区保護者懇談会（44名参加）
日時：9月9日（金） 会場：メルパルク東京（東京都港区）
- ・北海道・東北地区保護者懇談会（約200名参加）
日時：10月8日（土） 会場：山形大学工学部（山形県米沢市）
- ・西日本地区保護者懇談会（20名参加）
日時：11月6日（日） 会場：KKRホテル名古屋（愛知県名古屋市）



工学部では、昨年7月から12月に渡り学生・教職員、米沢市民による「チーム米沢」を結成し、東松島市や石巻市などにおいて合計13回震災ボランティア活動に参加しました。そんな中、何と11回参加いただきました加賀いづみさんに寄稿していただきました。加賀さんの協力精神に感服するばかりです。ありがとうございました。

震災ボランティア「チーム米沢」の活動報告

物質化学工学科 3年 加 賀 いづみ

「がんばろう、東北」。3月11日から今日まで何度も目にし、耳にした言葉です。東北が、日本中がこの言葉を胸に協力してきました。その中で工学部では義援金などの支援のほかに、計13回の有志によるボランティア活動を行いました。夏から秋にかけては排水路のヘドロ掃除など生活区の清掃などが主な活動でした。冬には数百人体制で来年の海開きを目指す「松林クリーン大作戦」に参加しました。車窓からの景色も以前より綺麗に見え、ボランティア活動もイベント的に行われ、テレビで目にするように復興が進んでいるように見えました。あちこちに積んである瓦礫の山も、その証のように思えました。しかし、11月26日。この日は松林ではなく『個人宅の瓦礫撤去』。100人体制で個人宅？庭かな？などと思いながら向かうと、松林からすぐの場所にある海沿いの家。大破したに違いないそこは、綺麗に片付けられて家の痕跡だけが残っていました。冷たい海風の中、一日かかっても1件全ては終わりませんでした。地震から間もなく一年になります。しかし人の手で出来る事がまだまだたくさんあります。報道が減っても、私達が出来る事があります。やらなければいけないことがあります。今こそもう一度「がんばろう、東北」。



「有機エレクトロニクス研究センター」開設される

有機エレクトロニクス研究センター長 大 場 好 弘



工学部南側に完成した5階建て総床面積5700㎡の有機エレクトロニクス研究センターの開所式が2011年9月30日に行われました。主な研究部門は①有機EL②有機太陽電池③有機トランジスタの3部門で構成されています。ここにノーベル賞級の卓越教授“ドリームチーム”を中心にして国内外の新進気鋭の若手研究者を加えた“世界一の先端研究拠点”が出来上がりました。今後は、このセンターで開発された先端

基礎研究の成果を産業化に結びつけるための先端技術の実証化研究施設としての有機エレクトロニクスイノベーションセンター（経済産業省のイノベーション拠点立地支援事業の交付決定済み）が平成25年4月に開設される予定です。また文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム（国際戦略拠点）の採択が決定し、事業化の専門家としての“イノベーター”の採用が始まりました。“ドリームチーム”と“イノベーターチーム”の総結集による新たな世界的産業集積化支援拠点が米沢に出来上がりました。これまでの研究成果は平成23年7月1日から9月30日まで文科省ミュージアム「情報の広場」で展示され好評を得ました。今後の有機エレクトロニクス研究の展開に御期待下さい。

学科(専攻)だより

機能高分子工学科

高分子工学は有機ディスプレイ、有機太陽電池、燃料電池自動車をはじめ、航空や宇宙、医療・福祉、食品など広い分野での最先端技術を支えています。機能高分子工学科では、時代が求める創造性と起業家精神をあわせ持った、高分子材料に関するスペシャリストを育成することを目的としております。特に、高分子の基礎科学から製品レベルでの実用化までの一貫した教育・研究を通して、確かな専門基礎



学力に立脚した独創的かつ実践的な専門技術者、研究者の育成を目指しています。まず、有機化学と物理化学を中心とした基礎教育に重点を置き、2年次までは専修コースに関係なく全学生が基礎学力の向上に努めます。3年次からは、高分子合成化学、光・電子材料工

教育プログラム長 教授 森 秀 晴



学、高分子物性工学のいずれかの専修コースに所属し、それぞれの専門を中心にして学習する仕組みになっています。さらに、3年の後期（6学期）から各研究室に配属させて実施する研究開発プロポーザルにおいて、最先端の研究を通して実践的な研究手法を学び、多様な高分子材料の専門知識を深めると共に、少人数教育やグループワークを通して社会で期待される実践的な高分子技術者を育成します。本学科は30名の高分子科学者が結集した高分子研究の一大拠点として国内外から注目を集めており、こうした一流の研究者たちがそれぞれの専門分野において特色ある教育と研究を行っています。現在、約60%程度の学生が大学院に進学し、最先端の研究の発展に大きく貢献しています。

今後とも後援会の皆様方の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

物質化学工学科

工学部後援会の皆様には多方面から大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

物質化学工学科は、米沢高等工業学校の設立（1910年）と同時に設置された応用化学科に始まり、1958年に化学工学科が新設され化学系2学科となり、1990年の博士後期課程設置と同時に高分子系と大学科となった物質工学科を経て、2000年に化学系だけが分離して物質化学工学科となりました。さらに工学部100周年の2010年に物質化学工学科から新たな化学系としてバイオ化学工学科が新設され現在に至っております。

このように物質化学工学科は過去100年の間、学科名や学科数、学生数などの変化はありましたが、一貫して社会に貢献する化学技術者の育成を行ってきました。特にJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を通し



学生教員交流会の様子

教育プログラム長 教授 伊藤 和 明



てきめ細かな学生への教育指導により着実に学習を進められるような環境および体制を形作ってきました。施設面では昨年度より9号館に新たに化学系実験室の整備がなされ、最新の設備環境の中で学生実験が行われております。また、2012年度には3号館西側の改修が予定されており、化学系教員の3号館への集約がほぼ実現し、より一層の教育および研究体制の強化が図れるものと思われます。また、学生と教員の交流を深めるために学生教員交流会も不定期ではありますが行っており、学生の様々な相談、ニーズに対応できる体制づくりを進めています。昨今は厳しい経済状況ではありますが、化学は産業の基盤技術であり化学技術者の必要性は現在も変わっておりません。今後とも保護者の皆様にはますますのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

バイオ化学工学科

バイオ化学工学科は、工学部設立100周年を迎えた一昨年4月に、「化学と生物の融合」をテーマに60名の定員で新しく設立されました。昨年度は62名が入学し、女子が32名、男子が30名と女子が男子を上回る工学部では初めての学科になりました。今年度は個別学力試験に、面接に代わり筆記試験を導入しましたが、見事難関を突破し入学しました64名のうち、女子



2年後期の化学実験風景

が38名、男子が26名と女子の割合がさらに高くなっております。1期生は2年生となり、米沢キャンパスで専門教育を学ぶようになり、後期授業では新設されました化学実験室での実験がスタートしました(写真)。次年度(平成24年度)前期には、いよいよ細胞などを扱う生物実験が始まる予

教育プログラム長 教授 佐藤 慎 吾



定です。1期生は、次年度は3年生となることから、就職に向けた取り組みも実施する予定です。これまでも昨年度および今年度の工学部合同企業説明会では、300社余りの企業に対して本学科独自のパンフレットを配

布し、本学科のPRを実施して参りましたが、次年度は、3年次学生に対して、企業を知ってもらうために、授業の中で、様々な業種の企業から講師を招き、企業の紹介をしてもらう予定です。さらに、工場見学も実施する予定です。主な就職先は、化学を基盤とした、製薬、医療、食品、環境、エネルギー関連の製造業を中心とする企業を考えております。

このように、先ずは、第1期生の就職や大学院への進学を始めとする進路の確定を第1目標に、次年度はそのための情報やアドバイスを学生に積極的に提供したいと考えております。後援会の皆様には、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

応用生命システム工学科

応用生命システム工学科は、人間の生命活動をシステムとして捉えて、その仕組みや機能を学び、システムの総合的理解と新しいシステムの構築を行っています。そのため、本学科の学生は、単一の学問体系にとらわれず、生理学や再生医工学などの医療系学問、電気・電子回路や制御工学などの電気系学問、プログラミングや画像処理工学などの情報系学問を複合的に幅広く学んでいます。この学問体系をもつ学科は全国的に極めて少なく、企業が必要とする広



卒業研究の実験風景

教育プログラム長 教授 山 本 修



い知識が融合できる人材を輩出することに、学科教職員は一丸となって取り組んでいます。毎年、本学科の50%以上の学生は、深い専門知識の習得と技術者・研究者としての能力向上を目指して大学院に進学し、先端研究や技術開発の次世代の担い手になるべく、研究活動に没頭しています。就職状況については、電気・機械などの製造業からサービス業まで様々な業種となっています。

本学科では、机上の教育だけでなく、学生諸君が実社会で生き抜く力を養うためのプログラム、心のケアや教員のサポート体制の充実を図っています。先行き不透明な経済状況であっても、企業は学力・強い心をもつ優れた人材を採用するものと信じています。本学科の教職員は実社会で生き抜く人材を送り出すことに力を注いでおりますので、保護者及び後援会の皆様におかれましては、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

情報科学科

米沢が雪に覆われるこの時期（年末にこの記事を書いています）、4年生は卒業研究に没頭しています。今年の情報科学科の卒業研究発表会は2月21日、22日と決まりました。卒業研究は、春にテーマを決めるところから始まり、先行研究の調査と必要な手法の習得を行って、いざ自分の研究を始めるのが夏休み明けくらいになります。しかし予備実験をしてもなかなか期待したデータが取れず、悩んで工夫をして解決を模索するのが秋。実はその過程で研究テーマの本質的な意味や内容が理解されてきます。そして本実験をして取得されたデータの解析と工学的意味の解釈に明け暮れるのが、今の時期です。4年生はオリジナルな、たとえば狭くともその設定課題では世界で初めての研究を、自分の力で実行し卒業論文としてまとめます。これは日本の高等教育の素晴らしい制度であり、研究室という専門性のある少数教育でこのことが可能となります。

情報科学科では、このような教育の機会を3年生にも広げるために「プログラム演習IV」を開設し、今年で3年目となりました。これは、3年生後期から研究室へ配属され、その研究室独自のテーマで問題解決型

教育プログラム長 教授 野 本 弘 平

の学習を行うというものです。こちらの方も今の時期が、創意工夫の末に課題の本質が分かってきて、全体のまとめに知恵と汗を注ぐ段階となります。

会員の皆様はこの時期のキャンパスへいらっしやると、古くから変わらない風景も時代に応じた新しい取り組みもご覧になることと思います。情報科学科は、人にとっての情報を扱うという特質を大切にしながら社会の発展や人々の幸福に貢献できる人間を育てておりますので、どうぞ工学部キャンパスにおける彼らの生き生きとした姿をご覧になってください。



上：進捗表
左：仲間と

電気電子工学科

学科の教育に対する標語FACE to FACEに沿って、4つの学習・教育目標である基礎学力、専門知識と応用力、コミュニケーション力、技術者倫理と複眼的思考力を達成できるように教職員と学生諸君がお互いの向上のために教育プログラムの実行と不断の改善に努めています。

2012年1月末の就職内定率は学部87%、大学院93%であとひと踏ん張りです。当学科では働くことの意味を意識しながら、学ぶことや人生の目標を明確にし、チームで仕事をするために、人の話を聴き、討論する力などを付与すべく、大学内で唯一の入学直後の合宿研修を始め、1年のスタートアップセミナー



2年生のグループプロジェクト I

や2、3年のグループによる課題解決プロジェクトなど仲間と触れ自ら積極的に取り組む機会を多く設定しています。勿論、

教育プログラム長 教授 東 山 禎 夫

その成果は本人の取り組む気持ち次第です。

当プログラムでは講義や実験におけるレポートから卒業研究の報告書、卒業論文に至るまで、在学中に学生の書くべき文書は300～500ページに及びます。深く

考えながら日本語の文書を書けるように、23年度から2年生用の科目「技術系文書作成法」を始めました。日頃から本や新聞を読むことで、考える力、社会の動きや人の考えを汲み取る力、人間の幅などを大きく育ててもらいたいと思っています。

震災ボランティアや高齢者宅の除雪ボランティア活動では当学科の多くの学生が主体的に取り組んでくれました。自ら前に進む勇気を持つことほど心強いものではありません。学生諸君が確かな力を身につけて社会に出ていくためには、大学の教育だけでなく、サークルの仲間や地元の人との交流、保護者の皆様からの米沢のアパートや自宅での声がけが欠かせません。皆様のご協力とご支援をお願いいたします。



機械システム工学科

機械システム工学では、21世紀を担う優れた人材の育成を目標としています。資源の乏しいわが国の発展のためには、新しい価値の創造や新分野の産業を開拓できる優秀な人材の育成が生命線といわれています。特に現在は、震災からの復興のみならず新たな日本の構築のために、専門知識に加え全体を見渡すことのできる大局観と明快なヴィジョンを有する技術者が必要とされています。

そこで本学科では、特にものづくりに関連する実践的・実学的教育および社会人基礎力としてのコミュニケーション能力の養成を学習・教育目標とし、「前向き」で「創造性豊かな」自立した技術者の養成をめざしています。JABEE（日本技術者教育認定機構）認定のきめ細かい教育体制のもとで、学生は各自の



具体的目標を立て、各学期毎に達成度評価を行いながら着実に学習を進めていきます。学部
の4年間は主に機
械システム工学の

エンジニアリング創成でのディスカッション

教育プログラム長 教授 小沢田 正



基礎をしっかりと学んでいきます。約50%が進学する大学院博士前期課程の2年間では、研究の手法を深く学びその分野の最先端を体験し、ほとんどの学生が学会発表も行います。これは、学生にとって大きな自信となるだけでなく、企業からの評価も高く就職にもプラスになります。事情が許されるのであれば是非大学院へ進学されることをお勧めします。

保護者の皆様には、就職状況についてご心配のことと思います。本学科では2012年1月末現在で、大学院は95%、学部はAコース98%、Bコース88%と高い就職率を達成しております。優れた人材を求める企業側の志向に変化はありませんので、今後も学科と産業界、OBとの連携を密にし、就職力の強化・サポート体制に万全を期して参ります。本学科の使命は教育・研究を通じた優れた人材の育成にあると教職員一同受止めており、今後も一丸となって取組む所存ですので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

システム創成工学科

平成22年度に新設されたフレックスコース・システム創成工学科も創設から2年が過ぎ、ようやく学科としての形が見えてきました。現在、第一期生55名、第二期生50名が在籍し、主担当教員の数も徐々に増えています。これまでのところ不登校になる学生は一人もなく、まずまずの滑り出しといったところです。

システム創成工学科の特徴は、入学後1年程度をかけて自分が進む専門分野を決定し、自分で作成した学習プランに沿って、工学部で夜間と昼間に開講される全科目の中から受講科目を選択し”My Curriculum”を作って履修していく点にあります。その際、工学部は「ものをつくることができる人材」の育成を使命とすることから、ものをつくるのに必要な最低限の知識を得るために、機械工学の基礎科



教育プログラム長 教授 近藤 康雄



目6科目を必修科目として全員が履修することになります。したがって、工学部の昼間コースの学生とは異なって、自分が選択した専門分野の科目に加えて、機械工学の基礎を同時に学習することになり、2年生は朝8時50分から夜7時30分までフルタイムで授業を受ける曜日もあります。実際、現在の2年生からは、「カリキュラムがハードすぎる」といった声も聞こえてきますが、現状一人の脱落者もないことを考えると、学生一人一人はフレキシブルに上手く対応しているようで頼もしいかぎりです。

また、本学科では年次を越えて学生同士が交流することを目指して、2年生が幹事となって、春には新入生歓迎会、秋には芋煮会など学科あげての行事も行っています。今後とも後援会、保護者の皆様の暖かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

有機デバイス工学専攻

本専攻はご存じのように、日本で初めて有機デバイス工学に特化した専攻として、世界中から注目されています。従来の学問体系の枠組みを超えて、有機デバイスの専門的知識を持った人材の育成を目的として設立され、本専攻はこの春で6年目を迎えました。昨年の大学院改組で学生定員は25名になり、教員も大幅に増えて、これまで以上に充実した勉学・研究環境を提供できるようになりました。特に、博士前期大学院へ進学する学生が多いことも特徴の一つです。

有機デバイス工学は「有機エレクトロニクス」と呼ばれる有機分子やポリマー材料を用いてフラットパネルディスプレイ、半導体、照明材料、電池など様々な電子デバイスを創製する学問分野であり、省エネルギー・環境対応型、低炭素化技術としても大いに期待されています。さらに、山形大学の先端的研究拠点として「有機エレクトロニクスに関する世界的な研究拠点を整備する」という全学あげた取り組みの中で、本専攻が果たす役割は益々大きくなっています。これらの有機エレクトロニクス（有機EL、有機半導体、有機太陽電池）研究を推進するべ

専攻長 教授 伊藤 浩 志

く、新たな研究施設「先端有機エレクトロニクス研究センター（10号館）」が完成しており、世界最先端の研究、教育環境が整い始めております。世界各国からノーベル賞級の研究者を招聘するとともに、優秀な若手研究者が結集しており、本専攻の中核をなす城戸淳二卓越研究教授、時任静士卓越研究教授らの研究室では、高輝度有機EL照明や、フレキシブル有機デバイスの研究に注力されております。また、本専攻の中山健一准教授は昨年10月に第10回山形県科学技術奨励賞を受賞され、熊本大助教は独立行政法人科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラムに採択されるなど、若手研究者が益々活躍されています。



本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションも高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ものづくり技術経営学専攻

ものづくり技術経営学専攻は、2005年に創設され、2012年3月で7年が経過しました。83名の修士と1名の博士が巣立ち、強固なMOT同窓会組織があります。「食品創製コース」「とうほくMITRAIコース」がプログラム開発受託事業としての期限を終え、自立化を始めています。2012年度は「グローバル戦略コース」が継続しています。このコースでは一昨年、昨年とベトナムでのインターンシップ研修（写真参照）を実施しました。労働者賃金削減目的だけで製



ベトナム展開の日本企業でインターンシップ実習報告会

専攻長 教授 児玉 直 樹

造業の工場を海外展開してもその長期的最終効果は微々たるものでしかなく、グローバル戦略の本質を学んだはずです。

「日本の元気」は大手自動車企業、大手電子企業と、その関連企業がこれまでの駆動力でした。しかしながら、欧米自動車企業の復活、アジアの新興電子製造企業が力をつけ、相対的に元気がなくなっています。さらに2011年3月11日の東日本大震災、10月のタイ大洪水でグローバル展開したサプライチェーンは、世界各国の製造業で戦略の見直しを余儀なくされています。



2012年度は、課目改廃による指導内容の見直し、BBT（ビジネスブレイクスルー）大学院大学との連携、荒川区との連携を主に、狭い意味の「ものづくり」から、本来の技術経営学（技術をマネージして価値創造と価値獲得、グローバル戦略）を深めていきます。皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成22年度 一般会計収支決算書 及び 平成23年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	平成22年度			平成23年度 予算額	摘 要
	予算額	収入済額	増減		
会 費	22,113,000	21,248,500	△ 864,500	21,703,500	[会費内訳] 昼間コース @26,000円×606人 フレックスコース @26,000円×50人 3年次編入学 @13,000円×21人 博士前期課程 @13,000円×305人 博士後期課程 @19,500円×21人
雑 収 入	5,000	2,408	△ 2,592	2,000	預金利息
繰 越 金	2,207,741	2,207,741	0	1,022,648	
合 計	24,325,741	23,458,649	△ 867,092	22,728,148	

支出の部

項 目	平成22年度			平成23年度 予算額	摘 要
	予算額	支出済額	残 額		
1 学科厚生補導費	1,249,200	1,289,200	△ 40,000	1,269,000	
学部学生指導補助費	535,200	575,200	△ 40,000	581,600	入学現員で各学科に配分
学科行事等補助費	714,000	714,000	0	687,400	入学現員で各学科に配分
2 一般厚生補導費	2,894,000	2,251,279	642,721	2,509,525	
国際交流関係補助費	250,000	326,943	△ 76,943	250,000	国際連携サマープログラム等への補助
学務関係補助費	1,100,000	498,923	601,077	750,000	学生・教務関係補助
保健管理関係補助費	200,000	99,966	100,034	150,000	定期健康診断等補助
理容部運営補助費	450,000	430,922	19,078	450,000	財産使用料、光熱水料
教養教育事業後援費	894,000	894,525	△ 525	909,525	昼間コース1年生@1,500円×606人
3 進路対策補助費	150,000	16,038	133,962	100,000	就職ガイダンス、書籍購入費補助
4 学生研究助成費	1,050,000	975,315	74,685	1,000,000	学会発表補助 @5,000円×200人
5 課外活動補助費	500,000	301,223	198,777	450,000	サークル活動への補助
6 一般体育設備等補助費	550,000	556,236	△ 6,236	500,000	体育用具等
7 厚生施設等環境整備補助費	650,000	758,325	△ 108,325	600,000	学内環境整備補助
8 研修行事等関係補助費	150,000	140,000	10,000	150,000	技術職員研修
9 学部渉外関係補助費	1,450,000	1,538,626	△ 88,626	1,250,000	会議等補助
10 大学行事補助費	2,000,000	1,457,604	542,396	1,800,000	学位記授与式、永年勤続祝賀会、 重文コンサート補助、卒業祝賀会等
11 運 営 費	3,530,315	3,385,454	144,861	3,200,315	
会 報 費	750,000	510,430	239,570	550,000	会報印刷・郵送
会 議 費	250,000	261,369	△ 11,369	250,000	理事会、会長・副会長会議
通 信 費	150,000	20,600	129,400	50,000	会員へのお知らせ発送
事 務 費	1,050,000	1,335,195	△ 285,195	1,100,000	事務補佐員への給与
旅 費	150,000	0	150,000	120,000	他大学視察
地区別説明会費	1,050,000	1,157,545	△ 107,545	1,000,000	各地区保護者懇談会
学園都市推進協議会費	100,315	100,315	0	100,315	負担金
雑 費	30,000	0	30,000	30,000	
12 積 立 金	1,500,000	1,500,000	0	1,500,000	
13 施 設 協 力 金	8,505,000	8,172,500	332,500	8,347,500	定期預金へ
14 予 備 費	147,226	94,201	53,025	51,808	
合 計	24,325,741	22,436,001	1,889,740	22,728,148	

平成23年度 工学部後援会役員名簿

役 職	氏 名 等			所 属 等
会 長	学 外	上 村 勘 二		
副会長	学 外	長谷部 利 信		
	院 2 年	野 澤 悟		機械システム工学専攻
	A 4 年	伊 藤 甚 一		電気電子工学科
	B 4 年	渡 部 克		物質化学工学科
	教 授	神 戸 士 郎		学務委員会委員長（物質化学工学専攻）
理 事	教 授	佐 藤 学		同 副委員長（電気電子工学専攻）
	院 1 年	竹 田 浩 一		情報科学専攻
	A 4 年	中 川 聡		機能高分子工学科
	A 3 年	石 附 義 和		機能高分子工学科
	A 3 年	清 野 清 幸		機械システム工学科
	昼 間 2 年	楠 田 仁		機械システム工学科
	昼 間 2 年	鈴 木 さだ子		機械システム工学科
	昼 間 1 年	佐 藤 武 雄		情報科学科
	昼 間 1 年	安 原 和 子		情報科学科
	B 3 年	佐 藤 景 一		物質化学工学科
	フレックス 2 年	佐 藤 孝 則		システム創成工学科
	フレックス 1 年	小 川 隆		システム創成工学科
	学 外	結 城 經 治		(社)米沢工業会理事長
監 査	学 外	山 崎 洋一郎		(社)米沢工業会常務理事
	A 4 年	田 中 英 輝		機能高分子工学科
	A 3 年	加 藤 浩 樹		電気電子工学科
幹 事	教 授	古 閑 敏 夫		前学務委員会委員長（情報科学専攻）
	事 務 部 長	小 関 俊 宏		
	学 務 課 長	綿 貫 藤 雄		
顧 問	上 席 係 長	片 山 政 弘		
	工 学 部 長	飯 塚 博		
	前 会 長	山 森 茂一郎		

お 知 ら せ

◎学位記授与式・祝賀会のご案内

日 時：平成24年3月20日(火) 午前10時から
 式典会場：米沢市営体育館 米沢市金池3-1-62
 祝賀会会場：東京第一ホテル米沢 米沢市中央1-13-3

◎入学式のご案内

日 時：平成24年4月5日(木) 午前10時30分から
 式典会場：山形県体育館
 山形市霞城町1-2 霞城公園内

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当（☎0238-26-3017）

→授業料免除、奨学金、就職、休学、留学、
 学生寮、サークル活動、こころの悩み

学務課教育支援担当（☎0238-26-3015）

→教務、転学部・転学科、
 成績証明書・卒業証明書の発行

学務課入試担当（☎0238-26-3013）

→各種入学試験

平成24年度工学部年間予定表

前 期(平成24年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(日)～4/5(木)
 入学式：4/5(木)
 授業期間：4/10(火)～7/20(金)
 定期試験：7/23(月)～7/31(火)
 補講期間：8/1(水)～8/8(水)
 夏季休業：8/9(木)～9/30(日)

後 期(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

授業期間：10/1(月)～12/21(金)
 開学記念日：10/15(月)
 冬季休業：12/25(火)～1/10(木)
 授業期間：1/11(金)～2/1(金)
 定期試験：2/4(月)～2/13(水)
 補講期間：2/14(木)～2/20(水)
 春季休業：2/21(木)～3/31(日)
 学位記授与式：3/20(水)

平成23年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

1. 工学部

(1月末日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
A コ ー ス	機能高分子 工学科	興国インテック㈱、NECトーキン㈱、宝栄工業㈱、山形カシオ㈱、シチズン東北㈱、日本製線㈱、東京エレクトロン宮城㈱、㈱チノー、共栄産業㈱、ルネサス山形セミコンダクタ㈱、南条装備工業㈱、日本製紙㈱、京セラケミカル㈱、大和製罐㈱、河西工業㈱、NSS LCサービス㈱、郡山信用金庫、ミドリホクヨー㈱、小国町役場、㈱岩田レーベル、㈱タカギセイコー、㈱セイシン企業、㈱TRI サイタマ、キヤノンイメージングシステム㈱、東北リコー㈱、東栄製紙工業㈱、塚田理研㈱、㈱シャトレーゼ、旭ファイバークラス㈱、トップ㈱、協和発酵ケミカル㈱、山形航空電子㈱、ユニオンツール㈱、しげる工業㈱、三和漬物食品㈱、山形大学大学院 (79)	
	物質化学 工学科	㈱久田、㈱朝日工業社、㈱高研、㈱金属皮膜研究所、㈱ディー・エヌ・ケイ、㈱荘内銀行、㈱アサンテ、ニプロ㈱、アイエックス・ナレッジ㈱、㈱高田工業所、㈱山本製作所、プラス・テック㈱、㈱産業分析センター(2)、全農組合山形支部、㈱大昌電子、福島キヤノン㈱、㈱富士薬品、ゼリア新薬㈱、ホシザキ東北㈱、㈱サンエテクノスプラントエンジニアズ、㈱トッパン TDKレーベル福島工場、東京エレクトロン東北㈱、㈱Jオイルミルズ、森永乳業㈱盛岡工場、新興プランテック㈱、㈱フェニックス、㈱ウエノ、㈱ボーライト、めいらくグループ名古屋製酪㈱、日新製菓㈱、東北住電装㈱、山形信用金庫、㈱セゾンファクトリー、東北エプソン㈱、日本工機㈱、大成セラミック㈱、東北クリーン開発㈱、理研計器㈱、アサカ理研㈱、ケーヒンエレクトロニクステクノロジー㈱、シーケーエンジニアリング㈱、三栄精機工業㈱、パナソニックエレクトロニクス㈱、㈱ノムラシステムコーポレーション、関東化学㈱、㈱リード、㈱ビッグ富士、㈱三明、日本炭炭㈱、三菱ふそうトラック・バス㈱、富双合成㈱、山形酸素㈱、公務員 (3) (警視庁、宮城県警察、宮城県消防局)、山形大学大学院 (62)、金沢大学大学院、東京大学大学院、名古屋工業大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院	
	機械 システム 工学科	林精鋼㈱、ミネベア㈱、藤森工業㈱、㈱東海理化電機製作所、澤藤電機㈱、㈱キリウテクノ、トップ㈱、㈱TBK、さがえ西村山農業共同組合、日本ファインセラミックス㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱ (2)、東北精機工業㈱、㈱テクノ愛和、三木パワーコントロール㈱、㈱ケーヒン、㈱タンガロイ、伊藤建設㈱、東北技研㈱、伊藤ハムデイリー㈱、三菱自動車エンジニアリング㈱、㈱アイチコーポレーション、㈱ベガスベガス、フジコーポレーション㈱、いすゞ自動車㈱、㈱リケン、三木ブーリ㈱、明立工業㈱、THKインテックス㈱、アスモ㈱、山形パナソニック㈱、㈱山形信越石英、㈱TKC、㈱シーテック、㈱かわでん、三明機工㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、新菱冷熱工業㈱、トッキ㈱、関東自動車工業㈱、トヨタテクニカルディベロップメント㈱、㈱ニクニ、日立建機㈱、トーカドエナジー㈱、アリオンテック㈱、ナプテスコオートモティブ㈱、日精エー・エス・ビー機械㈱、東北バイオニアEG㈱、㈱ジェイシーエム、㈱ブルボン、㈱日立ニコトランスミッション、㈱ヨロズ、㈱西島製作所、第一屋製パン㈱、サクサ㈱、㈱弘電社、公務員 (3) (栃木県警察本部、国土交通省東北地方整備局、山形県職員)、山形大学大学院 (41)、東北大学大学院 (7)、代々木アニメーション学校	
	電気電子 工学科	新興プランテック㈱、日鉄電磁㈱、㈱ジェイテック、太平洋機工㈱、㈱ブルーミコミュニケーション、東北電力㈱ (2)、ケイテック㈱、ビィック㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、㈱いそのボデー、山崎製パン㈱、日本工管㈱、㈱ベガスベガス、アイジー工業㈱、㈱オーエム製作所、TDK庄内㈱、日本モレックス㈱ (2)、東京エレクトロン宮城㈱、TPR工業㈱、大倉電気㈱、㈱ルネサス北日本セミコンダクタ、マレーエンジンコンポーネンツジャパン㈱、㈱ユアテック、㈱NTTファシリティーズ、東レ東燃機能膜合同会社、㈱きんでん、㈱かわでん、㈱丹羽鉄工所、㈱シークス、三桜工業㈱、ヤマハ㈱、㈱ピココンジャパン、㈱ニクニ、ユニバーサルインフォメーション・サービス㈱、トーカドエナジー㈱、荏原環境プラント㈱、㈱イクス、東日本旅客鉄道㈱、富士電子㈱、仙台高等専門学校教員、公務員 (2) (米沢市役所、須賀川市役所)、山形大学大学院 (40)、東北大学大学院、福島大学大学院、新潟大学大学院	
	情報科学科	ユニアデックス㈱ (2)、ユニバーサル・インフォメーション・サービス㈱、米沢放電工業㈱、JA豊栄、㈱NSD、日立公共システムサービス㈱、富士通マイクロソリューションズ㈱、東北NSソリューションズ㈱、㈱ワークスアプリケーション、トヨタテクニカルディベロップメント㈱、清水建設㈱、㈱ビッツ、㈱ニッセイコム (2)、大興電子通信㈱、㈱富士通東北システムズ、NDソフトウェア㈱ (2)、キヤノンイメージングシステムズ㈱、総合警備保障㈱、NECフィールディング㈱、㈱NTTファシリティーズ東北、ドコモエンジニアリング東北㈱、㈱ハーツライフサポート、㈱デザインネットワーク、富士通エフサス、㈱日立アドバンストデジタル、㈱インターフェイス、㈱OME、㈱ワークス、山形放送㈱、㈱近江建設、㈱ケーヒン、山形大学工学部、公務員 (3) (山形市役所、栃木県警、消防署)、山形大学大学院 (26)、九州工業大学大学院、東北大学大学院、信州大学大学院	
	応用生命 システム 工学科	㈱ティエム2、日本ケミコン㈱、東日本旅客鉄道㈱、日東アリマン㈱、㈱日立情報制御ソリューションズ、㈱東日本計算センター、㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ、㈱高田地研、㈱富士通ビー・エス・シー、日本リテック㈱、アクト・セン㈱、㈱ニッキ、㈱エルクコーポレーション、㈱滋賀富士通ソフトウェア、サンデン㈱、ニプロ㈱、ムネカタホールディングス㈱、みちのくコカ・コーラボタックス㈱、㈱ダイナム、㈱コンピュータシステム・エンジニアリング、㈱ケーヒン、山形大学大学院 (26)、東北大学大学院、筑波大学大学院	
B コ ー ス	物質化学 工学科	旭ファイバークラス㈱、㈱住田光学ガラス田島工場、㈱アビバ、日新製菓㈱ (2)、セコム工業㈱、森永乳業㈱福島工場、ニフコ山形㈱、㈱セイシン企業、三和缶詰㈱、東北セラミック㈱、上田石灰工業㈱、㈱山九、宇野酸素㈱、公務員 (消防庁)、山形大学大学院 (9)、福島大学大学院	
	機械システム 工学科	三菱マテリアルテクノ㈱、アイシン精機㈱、㈱TBK、セコム工業㈱、㈱メイテック、㈱アクティオ、㈱青森銀行、住友電装㈱、新菱冷熱工業㈱、東陽精機㈱、松浦機械製作所㈱、㈱シグマ、大岸製作所㈱、㈱ワールドインテック、㈱アルプス技研、山形大学大学院 (5)、福島大学大学院 (2)	
	電気電子 工学科	㈱ユアテック、東北バイオニアEG㈱、ハイメカ㈱、東光電気工事㈱、サンワコムシステムエンジニアリング㈱、㈱エムディーシステムズ、大崎電気工業㈱、㈱東和エンジニアリング、㈱コガネイ、㈱シークス、㈱アース、山形大学大学院 (3)	
	情報科学科	㈱トップシステムエンジニアリング、㈱DNP情報システムズ、㈱ユードム、山形大学大学院 (2)	
S	応用生命システム 工学科	㈱インテックソリューションパワー、㈱ダイナム、リコーテクノシステムズ㈱、米沢放電㈱、公務員 (栃木県警)	

2. 大学院理工学研究科博士前期課程 (工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
機能高分子 工学専攻	出光ライオンコンポジット㈱、日産化学工業㈱ (2)、㈱JSP、東海ゴム工業㈱、星光PMC㈱、住友ベークライト㈱、㈱トーノ精密、東邦化学工業㈱、コニシ㈱、㈱コバヤシ、京セラケミカル㈱、三甲㈱、東都積水㈱、DIC㈱、横浜ゴム㈱、旭レ東燃機能膜㈱、山形カシオ㈱、大内新興化学工業㈱、アキレス㈱、大日商事㈱、新光電気工業㈱、㈱クレハ、トヨタ自動車㈱、KBセーレン㈱、㈱朝日ラバー、保土ヶ谷化学㈱、日産化学工業㈱、NECエネジーデバイス㈱、東洋平成ポリマー㈱、エレクトロテクノ㈱、日本メクトロン㈱、公務員 (山形県職員)	
有機デバイス 工学専攻	凸版印刷㈱、㈱吉野工業所、山形スリーエム㈱、三菱レイヨン㈱、イリリ電子工業㈱、潤工社㈱、コーデンシ㈱、日立化成工業㈱、旭ダイヤモンド工業㈱、大日本印刷㈱、㈱共和工業所、東北バイオニア㈱、㈱ジーシー、花王㈱、三井化学東セロ㈱、富双合成㈱、㈱ワールドインテック、電気化学工業㈱、サンディスク㈱、㈱東邦アーステック、パナソニック電工㈱、東京エレクトロン宮城㈱	
物質化学 工学専攻	興亜工業㈱、㈱トッパンTDKレーベル福島工場、フロンティア・ラボ㈱、SEMITEC㈱、㈱金陽社、千住金属鋳業㈱、トヨタ紡織㈱、高級アルコール工業㈱、ミドリホクヨー㈱、ニチコン㈱、日立造船㈱、日産化学㈱、㈱IHI、アイカ工業㈱、日本毛織㈱、ニチアス㈱、高木化学研究所㈱、日立化成テクノサービス㈱、大日精化工業㈱、三共理化学㈱、東北リコー㈱、協和油脂㈱、東北東ソー㈱、三菱化学エンジニアリング㈱、スズキハイテック㈱、㈱光陽社、日立化成工業㈱ (2)、ユニオンチーズ㈱、アシザワ・ファインテック㈱、㈱東芝、凸版印刷㈱、古河機械金属㈱、大日本印刷㈱、㈱トクシキ、マレーエンジンコンポーネンツジャパン㈱、シーケー金属㈱、㈱ヨロズ、DOWAホールディングス㈱、協和発酵ケミカル㈱	

バイオ化学 工学専攻	米沢製理薬品工業㈱、川研ファインケミカル㈱、㈱コガネイ、ムネカタ㈱、㈱トッパンNECサーキットソリューションズ、㈱アタゴ製作所、㈱レンゴー、古河エヌ・デー・ケー㈱、川口化学工業㈱、東洋合成工業㈱、F D K㈱、日本化成㈱、㈱大昌電子、住友軽金属㈱、日本重化学工業㈱、㈱タンガロイ、日東ベスト㈱、A G Cエレクトロニクス㈱、ニプロ㈱、全農エネルギー㈱、山形スリーエム㈱、㈱生活品質科学研究所、鬼怒川ゴム工業㈱、大阪ガスケミカル㈱、㈱アドバンテージ・サイエンス、日本ケミコン㈱、シンジータテック㈱、有機合成薬品工業㈱、T P Rサンライト㈱、田島ルーフィング㈱、日新製薬㈱、キャノン・ファインテック㈱、山形酸素㈱、日立化成㈱、日本特殊陶業㈱、大日本パックス㈱、東京エレクトロン宮城㈱、日本錬水㈱、㈱トッパンコスモ、山形大学大学院博士後期(4)
機械システム 工学専攻	白河オリンパス㈱、東海ゴム工業㈱、日本航空電子工業㈱、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、J U K I 電子工業㈱、日立建機㈱、東北バイオニア㈱(2)、㈱中嶋製作所、日特エンジニアリング㈱、㈱ニイガタマシントクノ、総合警備保障㈱、㈱加藤製作所、フクダ電子㈱、㈱小松製作所、㈱日立エンジニアリング・アンド・サービス、㈱シマノ、ユニバーサル造船㈱、シナノケンシ㈱、曙ブレーキ工業㈱、東洋アルミニウム㈱、東ソー・コーツ㈱、日東紡績㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、J F Eアドバンテック㈱、㈱小森コーポレーション、㈱ニクニ、ミツミ電機㈱山形事業所(2)、本田技研工業㈱、東日本旅客鉄道㈱仙台支社、双葉電子工業㈱、積水化学工業㈱、日本電気通信システム㈱、東京エレクトロン宮城㈱、スズキ㈱、㈱日立ニコトランスミッション、いすゞ自動車㈱、㈱日立プラントテクノロジー、コベルコ建機㈱、武蔵エンジニアリング㈱、東北リコー㈱、北芝電機㈱、㈱椿本チエイン、フタバ産業㈱、スガツネ工業㈱、ジヤトコエンジニアリング㈱、セイコーエプソン㈱、米沢電線㈱、ヤマザキマザック㈱、T H K㈱、錦正工業㈱、㈱コベルコマテリアル銅管、公務員(福島県職員)
電気電子 工学専攻	東日本旅客鉄道㈱、日本航空電子工業㈱、㈱日立エンジニアリング・アンド・サービス、日本ケミコン㈱、Y K K㈱、東北電力㈱(2)、㈱日立国際電気エンジニアリング、昭和電工㈱、富士通テレコムネットワークス㈱、㈱シリコンプラス、㈱オーバル、㈱アドバンテック、㈱明電舎、日本電波工業㈱、東芝電子管デバイス㈱、キャノンアネルバ㈱、ネッツエスアイ東洋㈱、ルネサスエレクトロニクス㈱、千代田化工建設㈱、㈱巴川製紙所、日本インテグリス㈱、東北バイオニア㈱、㈱フジクラ、新明和工業㈱、東レメディカル㈱、㈱日立国際電気、東京エレクトロン宮城㈱(3)、㈱竹中工務店、古河スカイ㈱、日立金属㈱、㈱山武、日本無線㈱、横浜ゴム㈱、富士重工㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、日本信号㈱、伊原電子工業㈱、㈱スギノマシン
情報科学専攻	三菱電機特機システム㈱、セコム㈱、トヨタ自動車㈱、㈱D N P 情報システム(2)、NECソフトウェア東北㈱、東芝テック㈱、㈱アドバンテック、㈱京三製作所、セイコーエプソン㈱、東芝ソリューション㈱(2)、東北電力㈱、住友電工システムソリューション㈱、㈱コンピュータシステム・エンジニアリング、㈱カーネルコンセプト、N D ソフトウェア㈱、㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ、神田通信機㈱、㈱東海理化電機製作所、ネッツエスアイ東洋㈱、東京計器㈱、日本銀行、㈱データシステム米沢、㈱日立東日本ソリューションズ、㈱ベガスベガス、公務員(経済産業省・東北経済産業局)
応用生命システム 工学専攻	富士通セミコンダクターITシステムズ㈱、ナブテスコ㈱、住友電工システムソリューション㈱、トヨタ自動車㈱、ヤマザキマザック㈱、三菱インフォメーションサービス㈱、富士通ネットワークソリューションズ㈱、三菱重工工業㈱、アドバンスト・アプリケーション㈱、㈱八光、東北インフォメーションシステムズ㈱、㈱東芝、アドソルジ進㈱、日本信号㈱、東北電力㈱、㈱日立アドバンストシステムズ、㈱ケーヒン、㈱シンフォディア・フィル、公務員(青森県庁)、山形大学大学院博士後期、東京大学大学院研究生
ものづくり技術経営専攻	荘内銀行、シナノケンシ㈱、㈱大気社、㈱山本製作所、有職者9人
生体センシング 機能工学専攻	(未定)

【お詫びと訂正】

昨年度発行いたしましたNo16号(2011.3)の就職内定先企業名に誤りがありました。本紙面をお借りしお詫び申し上げ次のとおり訂正いたします。

「平成22年度卒業・修了者の就職・進学内定先一覧」中、2. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)
生体センシング機能工学専攻 の欄(17頁)

誤：本田通信工業㈱ 正：本多通信工業㈱

3. 大学院理工学研究科博士後期課程(工学系)

専攻	就職内定先	専攻	就職内定先
物質生産工学専攻	日立化成㈱、有職者9人	システム情報工学専攻	㈱パネッセコーポレーション、有職者7人

平成22年度 卒業・修了者の就職状況

学科・専攻等 事項		A コース							B コース							博士前期											合 計
		機能高分子工学科	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	機能高分子工学科	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	機能高分子工学専攻	物質化学工学専攻	機械システム工学専攻	電気電子工学専攻	情報科学専攻	応用生命システム工学専攻	生体センシング機能工学専攻	ものづくり技術経営専攻	有機デバイス工学専攻	計		
概況	卒業・修了者数	(10)112	(40)115	(4)125	(3)91	(12)87	(17)62	(86)592	(0)1	(5)25	(0)22	(0)14	(2)12	(0)8	(7)82	(8)49	(13)49	(0)32	(4)38	(3)26	(8)21	(3)32	(1)10	(1)18	(41)275	(134)949	
	就職希望者数	(1)37	(24)55	(3)59	(4)46	(9)44	(9)27	(47)268	(0)0	(2)14	(0)11	(0)10	(2)10	(0)4	(4)49	(7)45	(12)47	(0)31	(4)36	(3)26	(8)21	(1)28	(0)5	(0)17	(36)256	(87)573	
	自営希望者数	(0)1	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)1	(0)2	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)1	(0)0	(0)1	(0)3	
	進学希望者数	(9)69	(15)55	(0)61	(0)43	(3)39	(8)32	(35)299	(0)0	(2)10	(0)5	(0)4	(0)1	(0)3	(2)23	(1)4	(1)2	(0)1	(0)1	(0)0	(0)0	(1)3	(1)1	(0)0	(4)12	(41)334	
	その他	(0)5	(1)5	(1)5	(2)2	(0)4	(0)2	(4)23	(0)1	(1)1	(0)6	(0)0	(0)1	(0)1	(1)10	(0)0	(0)0	(0)0	(0)1	(0)0	(0)0	(1)1	(0)3	(0)1	(0)6	(6)39	
況	就職者数	(0)36	(23)53	(3)59	(1)44	(8)41	(9)25	(44)258	(0)0	(2)13	(0)11	(0)10	(2)8	(0)4	(4)46	(7)45	(12)47	(0)31	(4)35	(3)26	(8)21	(1)27	(0)6	(1)17	(36)255	(84)559	
	未就職者数	(1)2	(0)2	(0)0	(0)2	(1)3	(0)3	(3)12	(0)0	(0)1	(0)0	(0)0	(0)2	(0)0	(0)3	(0)0	(0)0	(0)0	(0)1	(0)0	(0)0	(0)1	(0)0	(0)0	(0)2	(3)17	
	就職率(%)	94.7	96.4	100.0	95.7	93.2	89.3	95.6	0.0	92.9	100.0	100.0	80.0	100.0	93.9	100.0	100.0	100.0	97.2	100.0	100.0	96.4	100.0	100.0	99.2	97.0	

[注] () 内の数字は女子を示し内数である。

ものづくりサークル
人力飛行機研究会
craft-pal

部長 田中 昂

皆さん、“人力飛行機”というものはご存じでしょうか？

人力飛行機とは文字通り、人（パイロット）が動力となって空を飛ぶ飛行機のことを意味します。私たちは人力飛行機の製作活動を主な目的としているサークルです。鳥人間コンテストに出場する為に、約20名のメンバーで活動しております。



毎年、先輩から後輩へ技術を引き継いで、さらに技術を発展させながら、日々の活動に勤しんでいます。機体の製作では、昨年度までは8部門に分けて活動していましたが、今年からは部門を統合し、空力、カーボン、エンジン、電装の4部門での新体制で活動しています。各部門の簡単な説明をします。はじめに、空力部門は、主に翼の設計・製作を行っています。機体の設計で極めて重要な役割を担っています。次に、カーボン部門は、人力飛行機の骨組みであるカーボンパイプの設計・製作を行います。パイロットが安全で頑丈となるような設計を心掛けています。また、パイロットがペダルを漕いだ動力をプロペラへ伝える装置を総称して、駆動と言います。エンジン部門では、駆動の設計・製作と、プロペラの製作を行なっています。

今年7月、5年ぶりに“鳥人間コンテスト”に出場しました。出場した機体は、全長約3メートル、翼の長さ約28メートル、重量約39キロ、の尾翼がない“無尾翼機”です。名前は“アルソミトラ”と言い、植物の種子が名前の由来となっています。



今年は東日本大震災がありました。そして、東北に多くの被害と影響を与えました。そんな状況の中で、今回は特別な思いでこの大会に参加しました。しかしながら、30.46mと悔いが残る結果で終わりました。

機体製作の他にも、科学フェスティバルなどのイベントに参加するなど、地元へ向けたものづくりに関する活動を展開しています。

現在、来年の鳥人間コンテストに向けた機体を製作しています。来年の鳥人間コンテストにも出場できるように、メンバー全員で頑張っていきたいと思います。

Craft-Palホームページでは試験飛行の動画などを公開しています。ぜひアクセスしてみてください。http://www.geocities.jp/craftpal1995/index.htm

サークル紹介



学生フォーミュラ部

プロジェクト・リーダー
佐々木 剛

皆さんこんにちは。私達は山形大学工学部学生フォーミュラ部です。フォーミュラ部では学生自らが車両を構想・設計し、工作機械を使って製作します。そして毎年9月に行われる全

日本学生フォーミュラ大会で加速性能や旋回性能や燃費などを審査する動的審査と、車両のデザインや製作に掛かったコストを審査する静的審査を総合して競います。去年の大会では部活創立初となる技術車検合格を果たし、ついに動的審査に出れると喜んでいたので練習走行中にキャブレターからガソリンが漏れてしまい出走を諦めることにしました。今年はそれらを改良し、目標である全種目完走を果たしたいと思っています。大学の講義がある

期間は設計をメインに行い、春休み夏休みを利用して車両を製作します。一台のフォーミュラマシンを製作することで、ものづくりをする上での経験を積み、これからの社会を歩いていくエンジニアの基礎を固めることができます。もの作りに興味がある方、私達と一緒にフォーミュラマシンを作りませんか。